

夢塾だより

～ 一芸に秀でる ～

(第71号) 令和5年6月24日

「一芸に^{ひい}秀でる者は多芸に通ず」ということわざがあります。

「一つのことに優れている人はなにをやらせてもうまい」といった意味です。

私は長い間、ルネサンス期の万能人（レオナルド・ダ・ビンチ）を理想としていましたので、一芸に秀でるより、なんでもできる「万能人」にあこがれてきました。絵も描き、ピアノもギターも弾く。毛筆も習い、料理もする。陸上競技にたとえたら、単種目のチャンピオンよりも10種競技（武井壮は日本チャンピオン）ができたほうが良いとおもっていたのですが、この頃変わりました。

「一芸に秀でる」ことほど素晴らしいものはないと思うようになりました。「一芸に秀でる者」は、その道の第一人者です。その芸を会得して一流になるまでの並々ならぬ努力や工夫を重ねるなので、そのやり方や方法論はどんな芸にも通ずるものがあるというのが、前述のことわざです。

ただここで考えてほしいのは、その芸に秀でることが目標であってはいけないということです。その芸に秀でたおかげで世の中に何を提供し、いかに貢献するかでその芸の真の価値が問われるのではないかということです。

そういう理由で私は「一芸に秀でたい」と思うようになりました。さて、私の目指す『一芸』とは何か？



『高校生に分かりやすく数学を教える^{すべ}術』です。そのための努力と工夫を継続的に重ねていくことで、彼らが大人になった時に豊かな人生を歩んでいるようになっていたら幸せです。